夜に来る。

本シナリオの内容は虚構である。

現実のいかなる人物、団体、その他のものと一切の関係はない。 本シナリオでは大正という時代、文化を扱っている為、現代において差別的な表現となるものが含まれていることがあるが、差別 の肯定、助長する意図は決してない。

目次

111011-	
はじめに	- 3 -
キーパー向け情報	- 3 -
シナリオの概要	- 3 -
シナリオの背景情報	- 3 -
ハイドラ	- 4 -
アストラル体の投射	
千里眼事件	- 4 -
登場人物(NPC)	- 4 -
成澤日南子、3 番目の犠牲者	- 4 -
箕川次郎、最初の犠牲者	- 4 -
久能狭山、2 番目の犠牲者	- 5 -
丈梨兵吾、オカルティスト	- 5 -
有田純、心霊術家	- 5 -
古井耕一、ディレッタント	
プレイの準備	
1:導入部:『岡山会』	
- 1-1:前回の『岡山会』	
- 1-2:灰色の影	
1-3: 古井の迎え	
2:現場検証	
2-1:事件の現場	
2-2:灰色の粘液	
2-2 :灰色の粘液	- 8 -
3:箕川の行方	- 8 - - 8 -
3:箕川の行方 4:久能の行方	- 8 - - 8 - - 9 -
3:箕川の行方 4:久能の行方 5:首なし死体の事件	- 8 - - 8 - - 9 - - 9 -
3:箕川の行方 4:久能の行方 5:首なし死体の事件 5-1:「生首の黒焼き」	- 8 - - 8 - - 9 - - 9 -
3:箕川の行方 4:久能の行方 5:首なし死体の事件 5-1:「生首の黒焼き」 5-2:「鈴弁殺し」	- 8 - - 8 - - 9 - - 9 - 10 -
3:箕川の行方 4:久能の行方 5:首なし死体の事件 5-1:「生首の黒焼き」 5-2:「鈴弁殺し」 5-3:「陰獣事件」	- 8 - - 8 - - 9 - - 9 - - 9 - 10 -
3:箕川の行方 4:久能の行方 5:首なし死体の事件 5-1:「生首の黒焼き」 5-2:「鈴弁殺し」 5-3:「陰獣事件」 5-4:アメリカ、ハリウッドでの事件	- 8 - - 8 - - 9 - - 9 - 10 - 10 -
3:箕川の行方 4:久能の行方 5:首なし死体の事件 5-1:「生首の黒焼き」 5-2:「鈴弁殺し」 5-3:「陰獣事件」 5-4:アメリカ、ハリウッドでの事件 6:丈梨の行方	- 8 - - 8 - - 9 - - 9 - 10 - 10 - 10 -
3:箕川の行方	- 8 8 9 9 10 - 10 - 11 -
3:箕川の行方	- 8 8 9 9 10 - 10 - 11 - 11 -
3:箕川の行方	- 8 - 9 - 9 - 9 - 10 - 10 - 11 - 11 - 12 -
3:箕川の行方	- 8 9 9 9 - 10 - 10 - 11 - 11 -
3:箕川の行方	- 8 9 9 9 - 10 - 10 - 11 - 11 -
3:箕川の行方	- 8 - 9 - 9 - 9 - 10 - 10 - 11 - 11 - 11 -
3:箕川の行方	- 8 9 9 9 10 - 10 - 11 - 12 - 13 - 14 - 14 - 14 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18
3:箕川の行方	-8 - 8 - 9 - 9 - 9 - 10 - 10 - 11 - 11 - 11 -

10-1:丈梨の痕跡を辿る	15 -
10-2:丈梨の隠れ家	15 -
11:夜に来る	16 -
12:丈梨を捕える	17 -
12-1:日南子の首	17 -
12-2:証拠が無い	17 -
13:結末	18 -
13-1:丈梨を追い詰めた	18 -
13-2:丈梨を取り逃がす	18 -
13-3:日南子の救出	18 -
14:正気度の報酬	18 -
参考資料、その他	19 -
あとがき	19 -
奥付	19 -

『夜に来る』

that Comes at Night

どうして儀式の祈りに、「ゴルゴーよ、モルモーよ、千の貌をもてる月霊よ」という、謎めいた崇拝の祈りが 入りこんだのか。これが意味するものは明白だ。

--- ヘンリー・カットナー『ハイドラ』より

はじめに

本シナリオは『Call of Cthulhu 新クトゥルフ神話 TRPG』に対応したシナリオである。3~5人の探索 者向けにデザインされており、プレイ時間は探索者 の作成を含めずに 2~4時間を想定している。いわゆるシティアドベンチャーとなるが、小規模な戦闘が発生する可能性が高い。

シナリオの重大な情報が旧版(6版)に存在する 為、キーパーには旧版マレウス・モンストロルムも 必要だ。

罫線(─・一)で囲まれた部分はプレイヤーに読み上げる部分である。そのままでもよいし、キーパーの好きなように読み替えても構わない。

正気度ロールについて、1/1D4のような表記を行う。これは、ロールに成功した場合は1点、失敗した場合は1D4点の正気度ポイントを喪失することを表している。

シナリオの便宜上、各場面に番号を振っている が、時系列ではないので注意すること。

キーパー向け情報

シナリオの概要など、キーパーが事前に読む内容である。

シナリオは大正初期から、震災前の帝都を舞台と していることを想定している。

それ以前、以降でプレイする場合、キーパーは適 宜、シナリオ中の年代や帝都の様子を変更するこ と。

シナリオの概要

探索者達は銀座のカフェ『アントライオン』でだ

いた月に一回で開催される『岡山会』へ出席することになる。この会は文字通り、岡山に関係がある人間が集まって帝都で旧懐を温めるという会だ。

『岡山会』が進むなか、日南子の背後に人影のようなものが現れた後に、ハイドラの触手が現れて日南子の首を刈り取っていく。

『岡山会』では前々から会の唯一の女性である成澤 日南子を巡って、丈梨兵吾と箕川次郎が対立してい た。前回、丈梨お得意のオカルト、千里眼について の議論が勃発し、散々に任された丈梨が「本物を見 せてやる」と嘯いて退席した。

今回、その論争に参加していた丈梨、箕川と久能 は欠席している。

呆然としている探索者たちは即座に呼ばれた警察に捕らえられ留置場で一夜を明かすことになる。翌朝、迎えに来た古井耕一に事情を話すと、探索者達は容疑者と目されていることを聞くとともに、この件の調査を依頼される。

探索者達は前回の『岡山会』であった事件から丈梨、箕川、久能をそれぞれ調査するが、箕川、久能とも日南子と同じように首なし死体として見つかる。

探索者達は残りの丈梨を探すが、それを察知した 丈梨からハイドラによる反撃を受ける。

ハイドラの襲撃を退け、浅草の隠れ家で丈梨を発 見した探索者達は、灰色の結晶から日南子の声を聞 き、そしてその首が丈梨の首を噛みちぎる姿を目撃 することになる。

シナリオの背景情報

シナリオの背景になる情報である。直接関係ない 部分もあるが、シナリオの理解のため一読して欲し い。

ハイドラ

ハイドラについては、旧版のマレウス・モンストロルム P.231 を参照。新クトゥルフ神話 TRPG へのコンバートが必要である。

アストラル体の投射

いわゆる体外離脱(Out Body Experience)というオカルト現象のことである。アストラル体は肉体から抜け出た魂、意識等の存在で世界の外側へ移動することが出来ると言う。

アストラル体の投射は主に意図的に行うなもので、アストラル旅行(Astral Travel)、星幽体投射、星気体投射などと呼ばれることもある。

こういった体外離脱については世界各国、宗教を 問わず存在し、一部の哲学でその説明に用いられて いることもあり、神智学を中心とした秘教運動に取 り入れられた。

19世紀から20世紀初頭の神智学や、精神分析のブームに乗って研究されたこともあり、当時は真面目な学問として捉えられていた。

旧版のマレウス・モンストロルム P.232 の囲み記事、ハンセン・ポプラン卿の日誌『アストラル・プレーン』も参照。

千里眼事件

明治 43(1910)年、熊本に住む御船千鶴子が千里眼 (透視能力)の持ち主として、東京帝国大学の助教授 であった福来友吉によって検証実験がされた。

最初は郵便で封をした透視の対象を送り、答えを 返すという形式で通信実験を行い、福来は御船の透 視能力を確信した。同時期に、熊本を訪ねた京都帝 都大学の今村新吉博士が同様の実験を行なったが、 検証としてはやはり不十分だった。福来、今村の共 同実験も行なわれたが、人に見られるのを嫌がった 御船の要望により、別室にて一人で透視を行なった と言われている。その後、これらの実験結果を福来 が東京帝都大学の心理学会にて報告、議論を巻き起 こした。

今村の方も同様に通信実験を続けており、同年6 ~7月の間に、『大阪朝日新聞』に「透視に就い て」と題した連載寄稿文を発表している。この記事 により、御船の存在や、千里眼、透視といった言葉 が世間に広まり、一種のブームを呼んだ。

9月になり福来、今村共同の実証実験が京都で実施されたが、こちらも検証実験としては不十分なもので、決定的な実証結果は得られず、同月に東京で実験が行なわれる。この時、福来、今村に加え、御船の親族や、学者と新聞記者も参加させた為、大きな話題となったが、この実験も前の実験と同じように、完全に人前で実施されたものではなく、結果に疑義が残るものだった。さらに11月にも福来が熊本で実験を行なっているが、同様に実験であり、完全に千里眼が立証されたわけではない。

翌明治 44 年 1 月、御船は 24 歳の若さで自殺。実験をマスコミが面白おかしく取り上げた、否定的なものだった、というのが原因だと言われているが、三船の実家には、千里眼で得た 20 万円(現代の価値にすると 2-4 億円)という大金が残されていたと言われおり、これを巡って家庭内での問題があったようだった。

登場人物(NPC)

シナリオの登場人物(NPC)を紹介する。キーパーはここに記載されているデータを好きなように変更しても構わないし、適宜増減させて問題ない。

成澤日南子、3番目の犠牲者

なるさわ・ひなこ、『岡山会』のマドンナ、オタ サーの姫的な立場であった女性である。

一部の会員には女王蜂のように思われているが、 そういったことはなく控えめで物静かで、影を背負っている印象がある。

未婚であるように思われており、丈梨、箕川が争っていたが、常にやんわりと躱している。彼女は結婚の直後に勃発した日露戦争で夫を亡くした未亡人で、二度目の結婚をする気はない。

シナリオの冒頭でハイドラの犠牲となる為、能力 値等は省略する。

箕川次郎、最初の犠牲者

みのかわ・じろう、『岡山会』に参加する帝大卒

の物理学者。

寺田寅彦の弟子を自称している。同じ帝大卒の丈 梨をライバル視しているうえに、日南子のことで張 り合っていた。

いわゆるエリートだが苦労して今の立場に居ることもあり、金持ちのボンボンである丈梨とは正反対である。

シナリオの開始時点ですでにハイドラの犠牲となっている為、能力値等は省略する。

久能狭山、2番目の犠牲者

くのう・さざん、『岡山会』に参加する刀剣マニア。

丈梨と箕川をあおって楽しんでいた節があり、オカルトには否定的な立場として丈梨を否定する側に回っていた(丈梨自身はオカルトではないと言っているが)。

『岡山会』の中では、帝都の外れで刀剣のコレクションとともに暮らす変わり者として有名だった。

シナリオの開始時点ですでにハイドラの犠牲となっている為、能力値等は省略する。

丈梨兵吾、オカルティスト

たけなし・ひょうご、『岡山会』に参加するオカルティスト。

箕川と同じく帝都大学出で、福来友吉の弟子を自称しているが福来は大正 3(1914)年に帝大から追放されており、実際には指導を受けたことは無い。

肥満気味の巨体の持ち主で、広く浅い知識と低いコミュニケーション能力の持ち主で、非常に自尊心が高く、人間として問題があるタイプだが、実家の金と立場によってそれなりの扱いを受けている(<信用>が高いのは彼自身によるものではなく、実家の力だ)。

『魂の射出』から本物の魔術を手に入れ、しかもそれが手軽に実行できた為に、彼はその力を濫用する(『魂の射出』が手軽なこと自体が罠なのだが)。

丈梨兵吾、オカルティスト

STR 60 CON 75 SIZ 85 DEX 50 INT 60 APP 45 POW 50 EDU 80 正気度 35 耐久力 16 **DB**:+1D4 ビルド:1 移動:7 近接戦闘(格闘) 25(12/5)%、ダメージ 1D4+DB 回避 25%

技能:威圧 30%、言いくるめ 25%、オカルト 75%、 鑑定 25%、クトゥルフ神話 1%、考古学 31%、信用 60%、人類学 21%、説得 20%、図書館 50%、ほか の言語(英語) 51%、魅惑 25%、歴史 20% 呪文:魂の射出

有田純、心霊術家

ありた・じゅん、心霊術家を自称するオカルティスト。

心霊術と称するいわゆる心霊治療や催眠術の類を 使い、その広く、膨大な知識により様々な分野、階 級の人間と交流している。

世間一般からは、オカルトブームの時流に乗った 新興宗教の教祖のような扱いから、変わり者の高等 遊民、あるいは各界に顔の利く時の人である。

大正時代の新興宗教ブーム、心霊ブームに乗って、その甘いマスクと言動、様々なトリックを駆使しつつ信者を獲得、弄んでいる。

今回のシナリオのように自身は直接手を下さず、 被害者自身が事件を起こすように仕向けている。

帝都モノガタリに掲載のシナリオ『闇の中の箱の中』で退場する人物である。

有田は探索者に同行して、何か判定を行うような ことは無い為、能力値等は省略する。

古井耕一、ディレッタント

ふるい・こういち、ディレッタント。

いわゆる高等遊民であり、相当な資産家である 為、まったく働いていない。かわりと言う訳ではな いが、顔と顔を繋ぐようなことを趣味としており、 『岡山会』もその一つである。その世話人の一人で あるが、他のことで忙しいこともあってあまり顔は 出せていない。

古井も探索者に同行して、何か判定を行うような ことは無い為、能力値等は省略する。

プレイの準備

プレイヤーが探索者を作成する、あるいは探索者 のバックストーリーを編集する際に、シナリオの冒 頭を伝えておくよいだろう。

大正初期、震災前の帝都の銀座にあるカフェ『アントライオン』で『岡山会』に参加することになる。

『岡山会』は文字通り、岡山出身者によるいわゆる 県人会みたいなものだ。

『岡山会』は最初期の頃は岡山の出身者であることが条件だったが、会が大きくなるにつれて緩和されていき、現在は岡山に関係があるか、会員の知り合いであったりすれば参加できるようになっている(もはや岡山に関心があるだけよい状態だ)。

岡山出身にこだわる必要はないが、探索者自身が そうでもよいし、この会の世話人である古井耕一の 知り合い、その名代として参加しているなどとして もよい。

キーパーへ:シナリオの導入となる『岡山会』の場面において、探索者同士が知り合うようにしてもよいし、最初から顔見知りでも問題ない。プレイの時間や動機づけの面からも楽な方法を選ぼう。

1:導入部: 『岡山会』

探索者は銀座にあるカフェ『アントライオン』の 2階を貸し切って行われる『岡山会』に出席することになる。

『岡山会』は特にこれといった目的のある会ではないが、参加者達の帝都でのちょっとした潤いになっている。

1-1:前回の『岡山会』

今回の『岡山会』では、丈梨、箕川、久能は欠席 している。

『岡山会』の出席者は、前回、彼らの間で『千里 眼』について論争が起こっていたことを思い出す。 きっかけは何だったか思い出せないが(いつもの ように丈梨が、箕川に議論をふっかけた)、例の明治末期に起こった『千里眼』事件の話から、いつも通り仲の悪い丈梨と箕川が酔った勢いも手伝って論争し、久能が囃し立てていた。

あの二人は特に仲が悪い。二人とも帝大卒で、物理学者で寺田寅彦に師事した箕川に対して、今は帝大を去ったが福来友吉の弟子を名乗る丈梨だ。

箕川と久能の前に手も足も出なかった丈梨だったが、いつものようにやんわりと日南子が止めに入ると、その日は丈梨が妙に自信のある調子で「千里眼を使って、XX日のお前の様子を教える」と言って去っていった。

その XX 日は、箕川は岡山の実家に戻っており、 以降は帝都で見ていない為、真偽のほどは分からな い。

1-2:灰色の影

『岡山会』でも目立つメンバーである3人が揃って 欠席してはいるが、そのうちにいつもの通りにそれ ぞれの近況や、地元ネタで酒食が進む。

その日、探索者達はたまたま日南子と一緒にテーブルを囲むことになり、<幸運>の最も低い探索者は、日南子の向かい側に陣取っている状態になる。

日南子の後ろに暗い影が出来ていた。ランプで照らされている店内は薄暗かったが、彼女の後ろにわだかまっている闇は、影ではないし、物理法則に反している。

その闇が人型のように思えた次の瞬間、何かを察 した日南子が後ろを振り返ると、恐怖に彩られた表 情で固まった。

人型の影が先導するかのように、その後ろの虚空 から粘液を滴らせながら灰色の原形質の塊が絞り出 されていた。

黒い影は混乱するかのように見えた後、消えた。 そして、灰色の物質が悲鳴を上げる間もない彼女を 包み込み、出現したときと同じように虚空へ消え た。

後には、灰色の粘液にまみれた首のない日南子の 身体が残っており、鋭利な刃物で切り取られたよう な首から血がとめどなく流れていた。 探索者の目前で、丈梨のアストラル体によって誘導されたハイドラが、日南子の首を狩り取る。この場での正気度ポイントの喪失は、丈梨のアストラル体の目撃が 0/1、日南子の死によって 0/1D6、ハイドラの一部を目撃したことで 1/1D10 となるが、ルールブック P.165 の選択ルール"複数回の<正気度>ロール"に従い、3回のロールのうち最も大きな正気度ポイントの喪失を採用する(キーパーの判断によって、この手加減は不要としてもよい)。また、日南子の前に陣取っていた不運な探索者は、彼女の死をまともに目撃してしまう為、喪失する正気度ポイントが+1 される。

通常、首を斬り取られるなどした場合、血が噴き 出すが灰色の粘液が覆っている為か、そうはならな い。日南子の首のない身体が倒れると、床に血が広 がる。

<医学>等ロールの必要なく、日南子の首はまるで鋭い刃物か何かで切り取られており、その切り口はまだ脈打ちながら血が流れ出している。当然だが、生きたままの状態で首を切断されたことが分かる。

日南子の体を覆う灰色の粘液については、何か分からない。

もしも、この場で正気を保っている探索者が居なくなった場合、時間が飛ばされて全員が留置所で目を醒ますことになる。

錯乱した探索者達が事件で呼ばれた警察を前に、 荒唐無稽な訴えをした為に留置所に収容されたなど とすればよいだろう。

キーパーは適宜、探索者のバックストーリーを汚すことを検討すること。

1-3: 古井の迎え

『岡山会』の場は騒然とするが、すぐさま警察が呼ばれ、警官が駆け付ける。

警察に見た通りのことを話しても信じてもらえない。口裏を合わせるか、荒唐無稽な話を信じ込ませようとしていると思われ、署まで連行される。

警察で暴れることもなく、事情聴取に素直に応じれば、話があまりにも荒唐無稽である為、夜明けとともに解放されるが、また呼び出すかもしれないから遠くに行くことはないようにとくぎを刺される。

取り調べから出てくると、古井耕一が待っている (探索者達があっさり釈放されるのも、彼の<信用> のおかげだ)。

「やあ、たいへんな目にあったみたいだね」と、いつもの飄々とした調子で、近くのカフェに入って、彼に事情を聴かれる。

一通り探索者が事件を語ったあと、古井は探索者達に言う。

「ごく狭い範囲に生きている人だからね。彼女が誰かに恨まれるような人だとは思えないけれど、近くに居る人間が何か知っていると思うよ、ってそれは僕や君達もかな!

ここで古井を交えて初期情報の整理を行うとよいだろう。探索者に岡山会のメンバー、特に今回欠席している丈梨、箕川、久能が怪しいことを認識させる。

古井から3人について以下のように教えられる。

- 箕川は所用があって岡山の実家に帰っていたが、その後は特に連絡が取れていない。
- 久能とも連絡は取れていないが、こちらはいつ ものことである。電話も引いていないので、訪 ねてみるしかない。
- 丈梨とも連絡が取れていないが、何かに忙しいようだった。彼の住むアパートを訪ねるとよいかもしれない。

『岡山会』の会員の連絡先などは古井が押さえているが、世話人となっているメンバー以外には伝えていない。

また、死んだ日南子については、以下のように語 る。

- 貞女は二夫にまみえず、とは言わないけれど、 彼女は未亡人だ。
- 夫は軍人で、日露戦争で戦死している。以降、 再婚せずにいる。知っての通り、荒川と在竹が 彼女に言い寄っていたが、軽くいなされてい た。
- 貞節だということもあるが、やはりもう一度夫を失うような目に遭うことを嫌がっているのではないか。しかし、人恋しいのか岡山会にはよく出てきている。

古井は探索者達が犯人だと警察に目されていると教える。警察は事件に皆目見当がついておらず、傍にいた探索者達に自白させるか、犯人に仕立て上げてしまえばよいと考えているようだと言う。

また、悪いことに銀座には新聞社がひしめき合っていることもあり、この事件はすでに各新聞社へ漏れて、今朝の朝刊で大々的に報道されている。

キーパーへ:警察は役に立たないし、何も掴んでいないことを探索者達に印象付けるとともに、事件を解決しないと犯人として逮捕される可能性があることを示唆すること。

同様に新聞社の方も概要以上の情報を掴んでいないが、事件が万人に知れ渡っていることを探索者に 認識させること。

キーパーの趣味によってはしつこく付きまとうが 役に立たない、たまに捜査の情報を漏らす警察、報 道関係者などを登場させるのも構わない。

2:現場検証

銀座の警察署から出て来た探索者達が、現場検証 を行うことを考えた場合、銀座のカフェ『アントラ イオン』に再度赴くことになる。

『アントライオン』は昼間、客もまばらだ。すでに 警官の姿はないが、事件があった 2 階は閉鎖されて いる。

探索者が店主に頼めば、古井の知り合いでもあり、特にロールの必要なく2階へと入れてもらえる。

2-1:事件の現場

現場はまだ片付けが済んでおらず、使っていたテーブルや椅子が部屋の隅に片付けられている他は、 当時と変わりはない。

日南子が倒れていたと思しき場所には、首のない 人型に灰色の粘液質の物質が残っている。どうや ら、普通に掃除しただけでは簡単に取れないよう だ。

この粘液質の物質は特にロールの必要なく採取可能である。

日南子はいつもの壁を背にした席に陣取ってお

り、彼女の後ろに影を見たのはランプが壁に落とした影を見間違えた可能性はあるが、あの時の影は色が濃いというよりも暗黒に近く普通の影ではなかったし、まるで意思をもったもののように日南子に近づいていったことを思い返すことになる。

現場検証で分かるのは、どうやっても首を切り落とす大事を瞬時に、そして壁に近い場所に居る日南子に対してどうやったかなど不可能としか言いようが無いことだ。

黒い影について思い出そうとした場合、それが明 らかに男性であったことを認識できる。

当然だが、足跡等も残っていない。まるで幽霊か何か、あるいは丈梨が言っていたアストラル体の 云々の物理的な存在ではない気がしてくる。

2-2:灰色の粘液

現場で採取した灰色の粘液を<化学>か、<薬品>で 調査した場合、分析不能であり物質としての成分が 分からず、現実に存在しているが、その存在が不確 かであると分かる。

推測として、何らかの生物由来の物質である可能 性が高いが、既知の生物のものではないと思われ る。

3:箕川の行方

箕川の実家に連絡を取るか、岡山の地方の記事が載っている新聞等を調べた場合、首なし死体で見つかっていることが分かる(当時の新聞にはプライバシー、個人情報保護などという言葉は無く、容赦なく実名、住所などが載った)。

死んだ日は、XX 日で、丈梨が予告していた日である。

箕川は密室で首なし死体で発見されている。警察の捜査も行われているが、不可能状況で不可解な死の為、まったく犯人の目算もついていない。

人間関係から捜査を行っているらしいが、大半は アリバイがあり、そもそも帝都という物理的に遠い 場所にいた為にまったく犯行が不可能である人物が 多い。

警察関係か、事件現場を見た人間(おそらく親族)

に問い合わせれば、現場に灰色の粘液が残っていた ことを教えてもらえる。

4:久能の行方

久能の住所は古井から教えてもらえる。

探索者は、帝都の外れ、池袋の辺りを尋ねることになる。池袋の開発が進むのは震災の前、大正の中期ごろからで、それまでは鄙びた田舎に鉄道が取っているだけのような村だった。

長閑な土地の隣家が見えないほど離れた場所に、 久能の家はある。竹林に囲まれた小さいながらも古 雅な数寄屋造りの和風家屋で、おそらく江戸期から のものを改装して使用していると思われる。

探索者が訪ねても反応はない。久能は一人暮らしである為、留守の場合は誰もいないことは思い至るが、<追跡>、<目星>によって久能の住居にはしばらく出入りが無いことが分かる。

玄関に手を掛けると鍵は掛かっていない(この時代、玄関に鍵を掛けること自体が珍しいが)。

中に入った場合、彼がよく履いていた雪駄や、他 の履物も玄関に残されており、出て行った形跡がな いことに気が付く。

久能の住居の内部は、彼が突然失踪したかのよう に、生活に関わるものがそのまま放置されている。

奥にある彼の刀剣コレクションが保管されている 部屋に入った場合、そこに首なし死体が倒れている ことに気が付く。

そこには、作務衣のようなものを着ている首なし の男が倒れていた。

死体は刀を握っており、何かに抵抗したような跡が見られるが、それも無駄だったようだ。

『アントライオン』で見た日南子と同じように、切り取られた首からはあまり出血しておらず、半ば乾いた、例の灰色の粘液が彼女と同じように辺りを覆っていた。

久能の首なし死体を目撃した探索者は、**0/1D6** の 正気度ポイントを喪失する。

現場はゆるやかな密室である。部屋の中には貴重

な刀剣の類も存在している為、鍵が掛かる部屋だが、探索者が入った時点では鍵は掛かっていなかった。

高い位置にある細い障子窓は人が入れそうな大きさはあるが、はめ殺しになっており開くことはできないし、誰かが触れた痕跡もない。出入口は唯一、探索者も出入りしたものだけだが、そこには何の痕跡も見つけることはできない(<目星>などによって、久能が入った時の痕跡しか発見できない)。

久能の死体が持っている刀を調べた場合、素人目に見てもよい刀だと分かる。<鑑定>、<芸術:(刀剣に関するもの)>、<近接戦闘:(刀剣に関するもの)>、<歴史>などでこの刀が古刀と呼ばれる古いものであり、貴重な一振りであることが分かる。

すでに乾いて固まっているが、刀にも灰色の粘液が付着しており、例の灰色の塊を斬ったのではないかと推測できる。

久能の首なし死体をどう処理するかは探索者次第 だが、警察に連絡を入れると面倒なことになるかも しれない。

キーパーへ:ハイドラは粘液質である為、通常の武器ではダメージを与えられない。久能の持っている古刀は長い年月を経ることで、魔術的な効果を付与された武器と同等の効果を持つに至っており、それでハイドラの触手を斬りつけることができたのだ。

5:首なし死体の事件

探索者が首なし死体について調査した場合、<図書館>によって以下の様な情報が得られる。

単純な記録の検索である為、時間を掛ければボーナス・ダイスを与えるか、自動的に見つかることにしてもよい。

5-1:「生首の黒焼き」

明治 35(1902)年に大阪で起こった事件である。

売薬の関係者たちの間で「生首の黒焼き」を販売 しているものが居ることが噂になり、それを警察が 捜査したところ事実であることが発覚する。

犯人には墓守が含まれており、埋葬のときに遺体 から首を切断していたという。 当時(あるいは戦後までも)、人骨や人体の一部が 業病や梅毒、あるいは滋養強壮によいと信じられて おり、それが薬として売られることがあった。

同年の愛媛で同じような事件があり、明治 41(1908)年にも三重県で同じような事件が起こって いる。

5-2:「鈴弁殺し」

大正 **7**(1918)年、富山で起こった事件である。被 害者が鈴木弁蔵という名であった為、『鈴弁殺し』 と呼称された。

信濃川の下流にある村で、トランク詰めにされた 人体の一部が発見される。最初の発見では頭部はな かったが、すぐにもう一つのトランクが発見され、 そちらには切断された頭部があった。

鄙びた村で起こった事件なうえに、あまりにもずさんな犯行であった為に(犯行に使用されたトランクに、犯人のイニシャルまで刻んであった)、すぐに犯人が検挙された。

犯人の山田が高級官僚だったこともあり、記事の 差し止め、同時に関連の贈収賄も発覚したが、世間 では折からの米騒動によって米価が高騰しており、 被害者が米商人だったことによって、英雄視されて 連日報道を賑わし、講談や演劇まで作られたとい う。

5-3:「陰獣事件」

この事件は昭和 7(1932)年に名古屋で発生したこの事件は、江戸川乱歩『陰獣』になぞらえられているが、作品との類似点は無い。

最初、鶏小屋で頭部が無く、両乳房を切り取られ、腹部から下腹部が激しく損壊した死体が発見される。その三日後、頭蓋骨が露出するほど切り刻まれ、毛髪ごと頭皮を剝がした頭部が発見された。

被害者が吉田ます江だと分かると、その情夫であった増渕倉吉が指名手配されるも、ます江の頭部の発見の2週間後、首を吊って自殺しているところを発見された。増渕はます江の頭部から引きはがした頭皮を被って自殺しており、頭部や身体から採ったと思しきものを所持していたと言われている。

この事件はシナリオの年代が合わない為、類似し

た事件が起こったものとする。

5-4:アメリカ、ハリウッドでの事件

最初に発見されたのはメリーランド州ボルチモア 在住のケネス・スコットの首なし死体だった。その 後、犯人が見つからないままに彼と文通をしていた ハリウッドのロバート・ルドウィクが失踪、同じく ハリウッド在住のポール・エドマンドがケネス・ス コットの頭に首を嚙み切られて死亡しているのが発 見された。

東海岸にあるボルチモアと西海岸のハリウッドで起こったこの奇怪な事件は警察からの正式な発表が無いが、エドマンドの部屋から押収された文書や証拠から、オカルトと薬物まみれの怪事件として煽情的に報道されている。

この事件は、ヘンリー・カットナー『ヒュドラ』で言及される事件である。『ヒュドラ』は昭和 14(1939)年の作品である為、その時期に起こったものと推定されるが、本シナリオの前に起こったものとする。

6: 丈梨の行方

彼の連絡先は彼の住むアパートの管理人宛となっており、住所もそれで分かる。

先に電話で連絡を取った場合、部屋まで呼びに行った後に留守であると告げられる。

彼は御茶ノ水にある単身者が入る木造アパート 『陽緑荘』で暮らしている。

『陽緑荘』は鉄筋コンクリート造りのいわゆる文化

アパート: 有名な『文化アパート』は、鉄筋コンクリート造の純洋式で、江戸川乱歩の明智の事務所だった『開化アパート』のモデルにもなった。文化アパートや、やはり有名な同潤会アパートなどは震災後に建てられたものだが、大正期には帝都の逼迫した住宅事情もあり、アパート形式の下宿が多く建てられた。

これらは現代と異なり個室内には水場はなく(当然、ガスなども引かれていない)、共同スペースにあるのが普通だった。

アパートのようなハイカラなものではなく、学生向けの下宿に近いが、個別に区切られた一人用の生活スペースが与えられる場所で暮らしには、それなりの収入が必要である。

『陽緑荘』は管理人を通さずに出入りできる。共用の玄関を住人以外が通れば目立つが、住人たちは都会化されたところもあり、あまり探索者達には興味を示さない。

各住人の部屋の扉には鍵が掛かるようになっているが、丈梨の部屋は開いている。

6-1:丈梨の部屋の中

『陽緑荘』は全室が和室だが、丈梨の部屋は絨毯を 敷いて洋式の家具を配置して、一見すると洋間のよ うに見えるようにしてある。

部屋の中央には洋間にそぐわない実験用の大きめのテーブルが設置してあり、用途不明の器具や実験の記録などが散乱している。

部屋の隅にはベッドや、丈梨の生活用品が散らばっており、彼がここで生活していた痕跡が覗える。

中央のテーブルを調べた場合、ロール等の必要なく、そこに『On the Sending Out of the Soul』(『魂の射出』)と題された小冊子と、おそらく丈梨の手による何かの記録、乳鉢のようなものに残る灰色の結晶があることが分かる。

これ見よがしに自己主張をしている本棚には、福来友吉の『心理学精義』『心霊の現象』『透視と念写』など、おそらく現在出版されているものが全てと、関連した書籍が置かれている。<図書館>によって、書籍の傾向は心理学が中心だが、それに関連した心霊学などのオカルト、錬金術、そして千里眼に関するものが多いことが分かる。

ベッドなど、丈梨が生活に使っているものを調べた場合、ごく最近までこれが使用されていたことが分かる。床には『岡山会』の翌日の朝刊が落ちており、日南子の首なし死体の事件が大々的に報道されている。

<目星>などによって、丈梨が慌ただしく出て行ったことが分かる。彼は『岡山会』の事件を新聞で知ると、とるものとらず逃げ出したのだ。

6-2: 丈梨の記録

丈梨の部屋のテーブルの上に残っていた、彼の手 による実験の記録である。

部屋にある他のメモなどからも、これが彼の手書 きのものであることには疑いはない。

もとがひどく乱雑な文字なのだが、さらに一部が 震える手で書かれているように判読不能になってい る。

日本語が母国語の場合、この資料を読むロールは 必要ない。時間を掛ければ普通に読める。キーパー が書かれている内容を読み上げるには長いので、ハ ンドアウトとして提示したほうがよいだろう。

.._.

YY β

米国から取り寄せた資料の中に古い冊子が挟まっていた。

『On the Sending Out of the Soul』と表題がある。どうやら星幽体投射に関わるもののようだ。

『魂の射出』と呼ぶことにする。

千里眼の研究の役に立つかもしれない。わずか8 頁のものなので簡単に読める。

YZ ∄

やはり、『魂の射出』は星幽体投射を実践する為のものだ。

最初の7頁はよくある陳腐な内容だが、8頁目に は実践の方法が記されている。

(しばらく、8 頁に書かれているものと思しき英語の 写しとその翻訳、実践に必要な物品の羅列と入手先 等が書かれている。

手に入りそうにないものは代替品まで検討されている)

ZZ \exists

僕一人の手には余る。こういった方面に造詣が深い心霊術家の有田氏を頼ることにしよう。

XY ∄

有田氏を訪ねる。星幽体投射(Astral Projection)についての議論を行う。

星幽体投射に必要な物品の入手や、代替品の助言 を受けた。 『魂の射出』について、彼は何か知っているようだ。幽体離脱のようなものだと言ったが、一瞬で臨む場所へ行けることや、物体を透過できるそれは千里眼の一種とも言えるかもしれない。

彼は『魂の射出』について危険な書物だと言う。 くれぐれも最後のページにある手順を試さないよう にと注意を受けた。

YZ ∄

今日は『岡山会』の日だ。

千里眼について箕川と論争になる。信じないのは 自由だが、福来先生を馬鹿にしたことは許さない。 この実験で千里眼を証明する。

xx H

準備は整った。箕川は今、岡山の実家に戻っていると言う。

帝都の僕の部屋からは何キロ離れているのだろうか。だが、それもこの実験が無視できることを教えてくれる。

(しばらくの空白の後、震える手で書き添えられている)

成功した。

おそらく岡山の実家で、僕の姿を見て慌てふため く箕川を確認した。

彼はひどく驚いた様子でこちらを見た。

その後の記憶は曖昧だ。灰色の■■が、箕川の■ ■■■ったように見えた。気が付くと部屋に戻って

次の『岡山会』で予告通り、岡山の彼の様子を伝えよう。

(■の部分は文字が乱れすぎていて判読できない)

YY ∄

どこからか箕川の声が聞こえる気がする。 失敗だと。あり得ない。奴も見たはずだ。 (以降、数行にわたって箕川に対する罵詈雑言) この成果をあの久能にも見せてやろう。そうすれ ば箕川も納得するはず。

YX ∄

まただ。灰色の $\blacksquare \blacksquare \blacksquare \blacksquare$ が見えた。その中で箕川の \blacksquare が $\blacksquare \blacksquare$ た。

久能が刀を並べている部屋にいるところを見た。

前と同じように記憶があいまいだが、久能もこちらを見えたのか、刀で斬りかかってきた。

(■の部分は文字が乱れすぎていて判読できない)

YX ∃

今度は箕川と久能の声がする。

ひどく疲れている気がする。千里眼をおこなったせいか。

今度の『岡山会』の時に実行し、僕の成果を知らしめることにしよう。

6-3:灰色の結晶

乳鉢のようなものの中に残っている灰色の結晶は、あらゆる角度や面を含んでいるように見え、艶消しガラスのような壊れやすい物質からできており、おおよすピラミッドのような四角錐をしており、高さは大体5寸(15cm)ある。

丈梨の記録を読んだ後である場合、この結晶が 『魂の射出』の儀式によって生成された物質である ことが分かる。

この物質を探索者が興味を抱くように、丈梨の部屋の探索時に、日南子の声が聞こえたと探索者に告げること。

この結晶は、ハイドラの存在する時空との連続性を維持する役割を担っている(ハイドラ自身は、最初の状態が再現されない限りは出現することはない)。この結晶が、探索者のそばにある場合、<幸運>の最も低い探索者は助けを求める日南子の声を聞くことになる。

その頻度や内容はキーパーの判断によるが、ハイドラに囚われている日南子はまともな思考が徐々にできなくなる為、最初の方がただ助けを求めるだけだったのが、丈梨への復讐を求めるように変化していく。

キーパーへ:灰色の結晶からの日南子の声は、シナリオを進める為の押しである。日南子は基本的に救出不可である為、あまりやり過ぎないように注意して欲しい。

7:『魂の射出』

『魂の射出』、On the Sending Out of the Soul

英語、著者等不明、1783年にセイラムで出版。

別の魔導書の一部をカルティストが翻訳したものだとも、ハイドラの信奉者がその生贄とする為の罠であるとも言われている。

4×5 インチほどの小さな冊子で、英語の自家製本である。印刷は長く伸ばされた十八世紀の活字が使って粗雑に行われており、刊行年も出版社名もない。

わずか8頁のもので、7頁までは神秘主義者の陳腐な内容だが、問題の8頁目は判読可能で、その頁には『アストラル体の投影』について具体的な手順が書いてある。

正気度喪失:1

<クトゥルフ神話>:0/+1%

神話レーティング:0

研究時間:2時間 呪文:『魂の射出』

丈梨は海外から送ってもらった、他のオカルト資料に挟まっていた『魂の射出』を発見した。粗末な茶色の紙が表装に使われており、本文用紙は黄変してぼろぼろになっている。読めなくなっている箇所もあるが、『魂の射出』の儀式を行う手順の解読には問題はない。

一読後、手に余ると判断した丈梨は、有田に相談した。危険であると言われたものの、彼の語るアストラルの旅の魅力に見事に引っ掛かってしまう(箕川への対抗心もあり、千里眼があるということを証明したかった)。

箕川、久能が死んだことは知らない為、丈梨は千 里眼が成功したと思い込み、『岡山会』へ再びアス トラル体でやってきた。

8:心霊術家、有田純

丈梨の記録に登場する有田は、『心霊術家』としてオカルト方面や、高等遊民の間で有名である為、探索者がオカルト、報道関連の職業や、身分が高い場合(華族である場合等)は自動的に知っている。

有田は福来友吉とも交流があった為に、その弟子 を自称する丈梨とも付き合いがある。

探索者が有田のゴシック風の洋館を尋ねると、ヴィクトリアンスタイルのメイドが応対に出てくる。 彼女は丁寧だが愛想のない態度で、「お約束はございますか」と聞く。

探索者が古井などの伝手を頼って有田と面会の約束を取り付けている場合は問題ないが、そうでなければやんわりと断られて追い返そうとする。その場合、コミュニケーション系のロールに成功するか、 丈梨の名前を出すと、メイドは奥に戻って有田に確認を行い、サロンへと通される。

広いサロンで探索者を十分に効果的な時間を待た せた後、館の主の『心霊術家』有田が現れる。

甘いマスクに洗練された態度で人を魅了し、広い 知識と人脈を有する男だが、どこか不安を与える、 危険な印象を受ける。

有田は丈梨について知っていることは話すが、丈 梨個人についてはあまり興味が無い。丈梨について は、福来友吉の弟子を自称していることや、『魂の 射出』に興味を持っていたことを語る。

『魂の射出』について探索者が聞くと、内容をざっくり探索者に語り、丈梨に与えた警告と同様、それが危険な書物であり、特に8頁目の手段は試さないようにと念を押される。これはいわゆる「押すなよ、押すなよ」であり、彼はアストラルの旅を魅力的に語る(『魂の射出』の内容を実践するかは探索者次第だ)。

先に久能の死体を見ている場合等、アストラル体の対処を尋ねた場合、「いわゆる霊剣と呼ばれたりするものだったり、幽霊や魔物を斬った逸話のある刀があるぐらいです。良い刀なら、アストラル体も切れるかもしれない」と冗談ぽく教える(要するに魔力を付与された武器や、それに近いものならばアストラル体も斬れるのだ)。

キーパーへ:有田の正体はニャルラトテップだが本シナリオでは無関係である。オカルト関係の有識者として出てくるだけなので、黒幕と思われるような怪しげな言動はなるべく避けよう。

9:アストラルの旅

『魂の射出』を解読した探索者が、それを実行しようとした場合、実験に必要なものはそれなりに危険な薬品や、稀なものが含まれる為、<信用>のロールによって集めたことにする。

探索者が古井を頼った場合、自動的に成功したことにしてもよいが、時間が掛かることにする。

8頁の手順に従い実施する前に、必ずキーパーは 探索者に行き先となる『何処か』か、『誰か』を思 い浮かべるか確認すること。

もしも、何も思い浮かべないようにする、とした 場合、瞑想などに関わる技能がある場合はハード以 上、ない場合は<POW>のイクストリームの成功が求 められる(そのロールは一時的に何も考えないだけ でなく、アストラル体の投射を行う異常体験の最 中、常に無を保つことを試みることになるから だ)。キーパーは事前に失敗のリスクを伝えておく こと。

失敗した場合は現在の懸案となっている『丈梨』 を思い浮かべてしまう。プッシュロールに失敗した 場合、探索者にとって致命的な、バックストーリー が汚されるような対象を思い浮かべてしまう。

成功した場合、ハイドラに遭遇した後の闇から部 屋に戻ってくることになる。

9-1:『魂の射出』の実行

『魂の射出』の手順自体は難しいものではない為、 材料が集まっていればロールは必要ない。

行き先を思い浮かべて実施した探索者に、以下の 描写を行う。

火鉢の中で燃え続けるものを見続けると、睡眠に似たトランス状態に陥った。まわりのものははっきりと見えていながら、奇妙に変化しており、部屋が大きくなったように感じる。

広がり方は異常なもので、部屋が次第に狂いだした。部屋の直線や曲線がすべて火鉢を指しているように思えた。

不思議な結晶の様なものが火鉢の中で出来はじ め、その結晶物に引き寄せられた。

一瞬、たまらないほどの冷気を感じると、灰色の

霧が視界を覆い、不安定さを感じた。

漂う煙になったと感じ、恐ろしい不安感に苛まれ 始めると、霧が消え失せた。

はるか下に見えるものは、灰色の海に思えた。う ごめく鉛色の表面には黒い円形のものが数えきれな いほど存在していた。

まっすぐと引き下ろされるのを感じると、灰色の 海が原形質状で、灰色の粘着物が広がっているだけ だったが、黒い円形は頭部だと分かった。

灰色の粘着質の上に数限りない頭部がうごめいて いる。頭部はすべて生きていた。

その目にはひどい苦痛をたたえていた。彼らの唇は静かな悲しみにゆだんでいた。涙がこけたほおをつたっているものも多かった。人間ならざる恐ろしい頭部さえもあった一鳥のようなもの、爬虫類のようなもの、奇怪なもの、石で出来たもの、金属で出来たもの、植物生物、彼らをむしばむ絶え間ない苦痛の跡が見られた。

そちらへ引き寄せられると、再び闇に包み込まれた。

アストラル体の投射の体験による 1/1D6+1 と、ハイドラを目撃した 1D8/5D10 の正気度ポイントを喪失するが、薬物によってトリップしている状態である為、この喪失は 1/10 に減少し、狂気に陥ることもない。

この後は、行き先による後段を参照する。

9-2:丈梨を思い浮かべた場合

丈梨を思い浮かべていた場合、彼が具体的にどこにいるのか知らなくとも、その隠れ家へとアストラル体は導かれる(その原理は不明だが)。以下の描写を行う。

見たことも無い部屋の一角から、丈梨を覗き込んでいる自分が居ることに気が付く。

部屋の天井付近からの視点としか思えない高さだっ た

ふと顔を上げた丈梨が探索者に気が付くと、顔つ きが一変した。

恐怖し、混乱した様子を見せる丈梨を、探索者は追い回したように思う。

夢が薄れて消えるような記憶の中で、探索者は倒れた丈梨の首から上が無くなっていたように見えた。

探索者がアストラル界を通じて丈梨の下へ現れる と、それによって誘導されたハイドラが丈梨の首を 斬り取る。

彼は何の対策もしていないし、そもそもそれを知 らない。無慈悲な首の蒐集者は容赦なく丈梨の首を 刈り取り、そのまま元の世界へ戻っていく。

9-3:それ以外を思い浮かべた場合

探索者が他の場所や人物を思い浮かべていた場合、闇が晴れるとぼんやりとしたその風景が現れる。そこが無人であるか、犠牲者となる可能性のある人間が居るかはキーパーの判断次第だが、<幸運>などによって決めるのもよいだろう。

ハイドラは探索者の後を追って、灰色の粘液にま みれた触手を伸ばしている。探索者が目的の場所、 人物を目撃すると同時に、ハイドラは攻撃を開始す る。

探索者がカフェ『アントライオン』で目撃したような犠牲者の首が斬り取られる光景を、再び目撃することになる。

その後、急速に現実感が戻ってくると同時に、まわりの風景が線のように収束を始めて、気が付くと 元の場所へ戻ってきており、まるで夢から醒めるように目を覚ます。

探索者が犠牲者を確認した場合、目撃した光景の 通りに首なし死体が見つかる。

10:丈梨の追跡

丈梨は浅草、十二階の裏手に隠れ家を持っている。

新聞で日南子の事件を知るや、とるものとらずそ ちらに逃げ出したが、落ち着いて考えるとそもそも 自分が犯人ではないし、アリバイもある為、慌てる 必要はないことに気が付く。

10-1:丈梨の痕跡を辿る

丈梨は持ち前の根拠の無い自信から、隠れ家から 出てきて御茶ノ水のアパート『陽緑荘』の様子を窺 いに来るが、探索者が部屋にいるか、あるいは部屋 を探した痕跡を見つけると、再び逃げ出す。

丈梨はその巨体と、悪い意味で目立つ人物である 為、探索者が聞き込みとして何らかのコミュニケー ション系のロールに成功すれば、浅草方面へ向かっ たことが分かる。

キーパーへ:彼の MOV は 7 しかない為、チェイスでは不利になる。探索者がよほど狡猾でない限り、少しでも見つかりそうになったら**痕跡を残して**去っていくようにしよう。

キーパーの判断でチェイスをしてもよいし、丈梨の MOV が平均値に戻るように能力値を修正しても構わない。

彼が帝大卒であることから、帝大の関係者を洗った場合、以下のことが分かる。

大学関係者や、大卒である場合は特にロールの必要はなく、そうでない場合は、<信用>か、コミュニケーション系のロールを行う。

- 学生時代から子供じみた趣味の持ち主で、浅 草の辺りに隠れ家じみた家を持っていた。
- 福来友吉の弟子を自称しているが、直接教えを受けた訳ではない(そもそも福来は追放されている)。

ロールに成功した場合は、以下の情報も口止めと共に教える。

- 最近になって急に近づいてきて、薬品などを 譲って欲しいと言ってきた。
- 普通では手に入らないようなものや、麻薬に 近い非合法のものも含まれていたが、金を積 むし、断ると面倒なので与えてしまった。

10-2: 丈梨の隠れ家

丈梨は浅草でも同様に悪い意味で目立っており、 十二階下を含めて、周辺で「面倒な客」として認識 されている。

探索者が自身の伝手や、浅草公園、六区の辺りで聞き込みを行った場合、特にロールの必要なく厄介な客として有名であることが分かる。ここのところ別のことで忙しかったようで、姿を見せていなかったが、昼間に目撃したと教えられる(門前町の方は丈梨の興味を引くものが少ない為、そちらでは情報は得られない)。

探索者が時間をかけて調査を行えば、十二階の裏手にある彼の隠れ家の場所を特定することが出来る(単純な聞き込み調査である為、時間を掛ける以外にはない)。あるいは、キーパーの判断で浅草六区の人ごみの中で丈梨を目撃して、ハザードの多いチェイスを行うのもよいだろう。

隠れ家は手狭な一軒家で、浅草の辺りの土地柄も あって瀟洒な妾宅のように見える。中は4畳半程度 しかないが、『陽緑荘』の部屋が再現されている。

日中、隠れ家に踏み込んだ場合、丈梨は居ない。 彼は自身の罪を認識しておらず、浅草に遊びに出て いる(あるいは、不安を紛らわす為)。

陽が暮れるまで張り込むか、夜改めてくるかすれば帰ってくる丈梨を発見する(昼間、探索者に見つかっていても、彼は特に警戒することなく隠れ家に戻ってくる。ここが見つかっているとは考えもしない)。

丈梨は帰ってくると、『魂の射出』の儀式を開始 する。

11:夜に来る

探索者に自分が探られていることを悟った丈梨は、『魂の射出』の儀式を行って探索者の様子を窺おうと、実行に移す。

丈梨によるハイドラの襲撃は、探索者達に様子を 探られていることに気が付いたその夜に起こる。

ターゲットとなるのは『岡山会』で顔を合わせた ことがあるか、調査の過程で顔を見られた可能性が ある探索者である。

日南子の時と同じように、探索者の背後に暗い影が現れた。

今なら、それが丈梨の影であると分かるが、次の 瞬間、その影の先導に従うように、虚空から灰色の 粘液を滴らせた原形質の塊が湧き出していた。

.._.

ハイドラの触手を目撃した場合、1/1D10 の正気 度ポイントを喪失する。

探索者に備えが無かった場合、ハイドラの触手には、P.102の先制の一撃(奇襲)が適用される(慈悲深いキーパーならば、この襲撃に気が付く為に<POW>や、<聞き耳>等のロールを行ってもよいだろう)。

探索者に十分な備えがあった場合、ハイドラの触 手との戦闘となる(丈梨のアストラル体は、ハイド ラを誘導した後に消える)。

ハイドラの触手は、犠牲者の首を刈り取るのに成功すると、再び虚空へと戻っていく。

探索者がハイドラの触手の撃退に成功した場合、 例の灰色の粘液の塊がその場に残り、固形物が全く 残っていない。

ハイドラの触手、千の貌を持てる月の一部

ハイドラの触手は、文字通りハイドラの身体の一部である触手が、アストラル界から物質世界に顕現したもので、『魂の射出』で誘導された先で首を斬り取るだけの自動機械のようなものである。

異様なものではあるが、本体が捕えている首が見える状態ではなく、普通(?)の異世界のクリーチャーのようにも思える為、正気度ポイントの喪失は本体に比べるべくもない。

STR N/A CON N/A SIZ 210 DEX N/A INT N/A POW N/A 耐久力 21 MP N/A

DB:N/A ビルド:3 移動:0

注意:ハイドラの触手にはほとんどの能力値が該当しない。DEX についても N/A である為、戦闘時は最も遅い順番で行動する。

攻撃

1ラウンドの攻撃回数:1

攻撃方法:灰色の粘液にまみれた触手で相手を包み 込み、その首を切断する。

近接戦闘 90(45/18)%、ダメージ 首を切り取る。

装甲:なし。ただし、物理的な武器でダメージを与えることはできない。魔術、魔力を付与された武器、火、電気、及び化学物質は通常のダメージを与える。

呪文:なし

正気度喪失:ハイドラの触手を見て失う正気度ポイントは **1/1D10**

最初の丈梨によるハイドラの誘導時にそのアストラル体に斬りかかった場合、ハイドラにダメージを与えられるものであれば、アストラル体にもダメージを与えることが出来る。次に彼を目撃した場合に、同じ怪我を追っていることが分かる。

キーパーへ:ハイドラの襲撃は探索者にとって致命的である。対策を怠った探索者の首を無慈悲に刈り取るのもよいが、事態がまだそれほど深刻ではない認識の場合もある為、襲撃のタイミングを注意深く検討しよう。

12:丈梨を捕える

丈梨を捕まえた場合、探索者が彼を問い詰めても 知らぬ存ぜぬを繰り返す。

彼が行った『魂の射出』の証拠を見せつけても、 犯罪の物的証拠は存在しないので、それを行ったことは認めるが、殺人を犯した根拠にはならない、と 犯行を認めずに居直る(オカルトを認めて、蓋然性 の高い推理でしかない)。

捕らえた丈梨をどう処理するかは探索者次第だが、彼を問い詰めた結果は『陽緑荘』で見つけた灰色の結晶を所持している場合、いないと場合で異なる(キーパーの判断で任意の方で構わない)。

12-1:日南子の首

『陽緑荘』で見つけた灰色の結晶を所持している場合、尋問の最中に突然、「日南子さんの声が!」と取り乱し始める。

「日南子さんの声が! /

愕然とした様子で、丈梨が叫んだ。そして、虚空 に向けて彼は弁解を始める。

日南子を殺した罪の意識に苛まれて、幻聴でも聞こえ始めたかと探索者達が思うと、丈梨の背後に黒い影が生じ始めた。

それは日南子や、探索者の背後に現れたものと同

じに見えたが、それよりもかなり小さいものだった。

見る間に空間から例の灰色の粘液が溢れ出した。 丈梨は身もだえしながら、相変わらず日南子への言い訳を続けている。

それは丈梨の首へと噛み付くと、怖ろしい力でそ の頸動脈を噛みちぎった。

噴き出す鮮血を浴びる丸いそれは、日南子の首だった。

この奇怪な光景を目撃した場合、1/1D8+1の正気度を喪失する。

最も<幸運>の低い不幸な探索者は、日南子の怨嗟 の声を聞くことになる為、正気度の喪失が+1され る。

12-2:証拠が無い

探索者が灰色の結晶を所持していない場合(キーパーの判断で所持している場合と同じにしてもよい)、証拠が無いと居直る丈梨だが彼の言い訳は次第に狂気じみてくる。

XX 日に岡山に居るはずの箕川の様子も知っているし、YX 日に家の刀剣コレクションを見てご満悦だった久能だって見ている!」

口角から泡を飛ばしながら彼はそこに居ない誰か に続ける。

「あの日、銀座の『アントライオン』の2階で、奥の方に作られたテーブルを囲んでいたお前たちと日南子さんだって見た!」

「でも、証拠が無い!

僕が、僕だけが知っているだけなんだ!」 絶叫の後、がっくりと丈梨はうなだれて意識を失った。 問うに落ちず語るに落ちる、とは少し違うが、我慢できなくなった丈梨は自ら犯行を語る。そして、 その言葉の通りに物理的な証拠は無い。

気を失った丈梨を気付かせると、彼が正気を失っていることが分かる。気を失う前の言葉を繰り返しながら、時折日南子への謝罪の言葉と、福来友吉への問いかけを口にする。

正気を失った丈梨をどうするかは探索者次第だが、警察、精神病院に引き渡した後、丈梨は治療のあてもなく実家へと戻っていく。探索者はあの様子では二度と『魂の射出』を行うようなことは無いと感じる。

13:結末

結末は探索者の行動によって異なる。

次にあげるものが主なものとなるが、シナリオの 経過や探索者の傾向、キーパーの好みなどに合わせ て結末を演出しよう。

13-1:丈梨を追い詰めた

丈梨の生死に関わらず、『魂の射出』を二度と行うことがない状況を作り上げた探索者は、ひとまずハイドラの恐怖に怯える必要が無くなる。

警察は丈梨の様子から事件の容疑者と判断するが、物理的な証拠が無い為に逮捕は断念し、死亡している場合は犯行をすべて死人に押し付ける。

物理的な証拠が無いことが強調されることで、実力者である丈梨の実家からの圧力や、古井の顔によって探索者は重要参考人以上にはならない。

しばらくの間、銀座の事件と丈梨や探索者の関係 が新聞上で取り沙汰されるが、1週間もあれば沈静 化し、探索者を煩わせることもなくなる。

日南子の首が見つかっていない場合、警察関係者 がしばらく捜索に動くとともに、探索者の動向にも 注意を向けられるだろう。

13-2:丈梨を取り逃がす

キーパーが時間切れであると判断するか、丈梨が逃げ切った場合、2週間ほど経った後に地方の旅館で丈梨が死んだことを新聞などで知る。

密室と言える状況で、何故か彼の首に別の事件で 首を斬り取られた日南子の首が噛み付いており、そ れが致命傷となって死亡したと記事は告げている。

13-3:日南子の救出

キーパーや、探索者によっては日南子の救出が可能ではないかと考える可能性がある。

その場合は、早い段階で丈梨を押さえたうえで、 灰色の結晶を通して彼女を助ける必要がある。

日南子はすでに首を切り離されているが、ハイドラの本体の灰色の海に接続されている場合は、ほぼ不死となる(このような苦行を長く続けられるわけはなく、そのうちに狂ってしまうが)。

最初に『魂の射出』の手順を持って、灰色の結晶を通り抜けてハイドラの下へ行き、その首を回収する。灰色の粘液が首の切断面に残っている間は、その生命力が尽きるまで首が死ぬことは無い。

その後、日南子の指示に従って様々な異次元を通り抜け、究極の混沌の中心にある帳の向こうから狂おしい笛の音がするアザトースの宮殿へと赴くことで、日南子は再び肉体を得ることが出来る。

アザトースを覆う帳は薄く、笛の音は狂おしく侵入者を誘引すると言い、一目でも万物の創造主であるアザトースを目撃すれば破滅を免れない。

キーパーへ:本シナリオではこの日南子の再生の過程には対応しない。必要であれば別途、キーパー各位で日南子を救出するシナリオを検討して欲しい。

14:正気度の報酬

探索者によって結末は異なるが、丈梨を追い詰めて『魂の射出』を行うことが制限できた場合、1D10 点の正気度ポイントを獲得する。

探索者が自ら『魂の射出』を試み、結果として丈 梨を死亡させた場合も同様に 1D10 点の正気度ポイントを獲得するが、ハイドラを直接目撃したことに よってその触手がいつ自分のところへ現れるか分からない恐怖に怯えることになる為、1D6 点の正気度 ポイントを喪失する。

探索者が『魂の射出』を処分した場合、追加で1 点の正気度ポイントを獲得する。

参考資料、その他

本シナリオで主に参照した資料等を記載する。

- 暗黒神話大系シリーズ クトゥルー 9 青心社 『ヒュドラ』、ヘンリィ・カットナー、三宅初江訳
- 新クトゥルフ神話 TRPG 株式会社 KADOKAWA
- クトゥルフ神話 TRPG 株式会社 KADOKAWA
- クトゥルフ神話 TRPG クトゥルフと帝国 株式会社 KADOKAWA
- クトゥルフ神話 TRPG マレウス・モンストロルム 株式会社 KADOKAWA ※いわゆる旧版の方。7版でハイドラはリストラされてました…。
- 『大正略字』フォント 表紙に使用している『大正略字』フォントは以下の URL よりダウンロード可能。 https://booth.pm/ja/items/363104 ※フリーなのでぜひ、ご活用を!
- 帝都モノガタリ http://fgate.cyber-ninja.jp/index.html

あとがき

まさかの7版でリストラ対象でした。そんな馬鹿な。

ヘンリー・カットナーの『ヒュドラ』のみが出演作品になりますが、いろいろとクトゥルフ神話の設定を取り込んだ面白い存在であり、ユニークな存在であるのでぜひともシナリオにしたかった神格です。

少しやりづらいタイプのシナリオになっていますが、やりやすいように膨らませてもらえればよいかと思います。

奥付

発行日:初版 令和4年1月4日

発 行: F.G./龍門亭 EDO-RAM(@EDO_RAMv200)